

第2号議案

令和6年度 研修報告

CMED会では、CMED会会員の技術力研鑽と情報交換の場として、年に1～2回、現場見学と意見交換会を併せて、施工中のダム現場における地区研修会を開催している。

令和6年度は、ダム事業数の減少から研修会の対象となるダムに限られる中、コンクリート打設作業の最盛期を迎えている足羽川ダム及び吉野瀬川ダムが同じ福井県で施工されていることから、2ダム合同で開催することとした。

1. 開催日および参加者数

表 開催日及び参加者数

開催場所 開催形式	開催日	ダム現場等 外勤者	本支店等 内勤者	常任 幹事	ダム 協会	合計
足羽川ダム 現地開催	R6.10.29	18	12	12	2	44
吉野瀬川ダム 現地開催	R6.10.30	16	12	12	2	42

2. 足羽川ダム地区研修会

(1) 地区研修会の概要

足羽川ダムは、堤高 96m、堤頂長 351m、堤体積 670,000m³ の流水型の重力式コンクリートダムで、洪水調節・河川環境の維持を目的とした治水ダムである。

当日は、日本ダム協会の光成専務理事、CMED会の内藤会長から、地区研修会参加者及びダムJ Vの皆様へ現場見学会開催について感謝の言葉が述べられた後、足羽川ダム地区研修会を実施した。



足羽川ダム地区研修会開催状況

(2) 現地見学会の内容

現地調査に先立ち、足羽川ダム本体建設工事共同企業体の岩渕所長により、足羽川ダム建設工事概要の説明がなされた。

現地見学は、左岸展望台、ダム堤体打設箇所、骨材製造設備ヤード、原石山等を2班に分かれて実施し、堤体打設状況、原石山の施工状況について確認を行った。

特に、左岸展望台ではコンクリートの高速輸送設備として採用されている「SC プレミアムベルコン(袋状ベルコン)」によるダムコンクリートの連続高速輸送技術について丁寧にご説明頂き、参加者の関心も高かった。



堤体コンクリート打設状況確認



SC プレミアムベルコンの説明

3. 吉野瀬川ダム地区研修会

(1) 地区研修会の概要

吉野瀬川ダムは、堤高 58m、堤頂長 190m、堤体積 137,000m³ の重力式コンクリートダムで、洪水調節・河川環境の維持を目的とした治水ダムである。

当日は、日本ダム協会の光成専務理事、CME D会の内藤会長の開会挨拶の後、吉野瀬川ダム地区研修会を実施した。



吉野瀬川ダム地区研修会開催状況

(2) 現地見学会の内容

現地調査に先立ち、吉野瀬川ダム本体建設工事共同企業体の富森所長により、吉野瀬川ダム建設工事概要の説明がなされた。

現地見学は、マイクロバス 2 台に分乗し、左岸展望台～上流仮設備ヤード～ダム堤体内の順に見学を行った。

吉野瀬川ダムは大規模ダムではないものの、働き方改革やその他制約条件の多い中、工程確保のため、主打設備の大型化をはじめ様々な企業努力をされているのが印象的であった。



吉野瀬川ダム現地見学状況（左岸展望台）



吉野瀬川ダム現地見学状況（堤体上流）

4. 意見交換会の内容

足羽川ダムのダムサイト見学会の後、研修会会場において意見交換会を実施した。

令和 6 年度は、担い手 3 法（案）の国会提出を受けて、「CMED 会からの課題抽出と課題解決に向けて」と題し、以下の 4 つのテーマについて意見交換を行った。

- ① 働き方改革と担い手確保（罰則付きで時間外労働の上限規制が規定された労働基準法を守るための労働環境の改善）
- ② 生産性の向上（新技術・新工法・施工性を考えた設計・施工計画）
- ③ 品確法の的確な運用（入札・契約に関する改善）
- ④ ダムの設計変更項目の後進ダムへのフィードバックについて

①に関しては特にダム現場の特殊性を反映した経費増が必要であること、②に関しては、自動化・新技術の採用には設計を根本から変える必要があること、③については、発注時にリフトスケジュールを含めた制約条件の全面開示や積算条件の明示を厳格に行うことや ECI の導入等、④に関しては、設計変更の情報が適宜設計コンサルタント伝わる仕組みの構築の必要性等について議論を行った。

5. 総括

令和 6 年度は、同地区で同時にコンクリート打設の最盛期を迎えている足羽川ダムと吉野瀬川ダムの 2 ダムにおいて、現場見学会と意見交換会を主体とする合同地区研修会を開催することができた。

一度に 2 つのダムを見学できる有意義な機会を提供して頂いた、足羽川ダム及び吉野瀬川ダムの関係者の皆様に対し、この場をお借りして御礼申し上げます。

例年同様、地区研修会の開催を通じて、地区研修会はCME D会会員の技術力研鑽と情報交換の場として、また、これからCME D資格を目指す若手技術者の育成と交流の場として重要な機会であることをあらためて認識することができた。

今後、ダム事業の現状に伴い、地区研修会を開催できるダムも少なくなりますが、開催時期や日程、行程、研修内容の見直し等を行い、次年度以降も、年 1～2 回の地区研修会を企画し、地区研修会がCME D会会員及びこれからダム工事総括管理技術者を目指す若手技術者にとってより有意義に機能するよう努力していきたい。

以上